

【5：観光】

<概要>

2020年の東京オリンピックという機会を目前に控え、インバウンド観光の拡大など、観光業界では大きな転機を迎えている。しかし、観光業の現場では、科学的根拠・データに基づいた有効な観光施策の立案を行う事ができていない。

「モバイル空間統計」などで、マクロな観光動態の把握はある程度可能だが、ミクロな観光動態については、まだまだ課題が多い。現状のミクロな観光動態調査の手法として、アンケート・GPSなどがあるが、サンプルに偏りがある、期間が限定される、精度が粗い、などの課題が残されており、必要な情報が不足しているためである。

そこで、本研究プロジェクトでは、最新のICT技術を活用して、インバウンド旅行者の動きを把握する仕組みを開発する。さらに開発する技術についての効果的な社会実装の方法を検討した上で実際の政策立案や観光マーケティングへの応用を試み、活用の場の拡大に向けて将来的な展開可能性や課題を実務的な利用を通じてノウハウの蓄積を図る。

本研究成果によって、1：混雑状況や気象条件などに応じたリコmendなどの手段を通して個々の旅行者の満足度の向上と都市における交通・観光資源などのリソースを最適化が可能となり、2：旅行者の動きが産業（特にサービス業）に与える影響・インパクトを分析し、地域内で提供されるサービスの過不足や効率を分析して改善につなげるPDCAを実現でき、3：旅行者の動きの結果生じる経済効果などをリアルタイムに分析できる体制を整え、自治体等が実施する各施策の投資対効果（ROI）を検証できる。などの成果還元が可能となる。

<活動体制>

（学内）

寒江江雅彦（人間社会研究域経済学経営学系・教授）

高山純一（理工研究域環境デザイン学系・教授）

藤生慎（理工研究域環境デザイン学系・助教）

（連携自治体）

石川県、七尾市、金沢市

<活動中の個別事業>

- ・観光関連統計の適正化と相互活用
- ・広域交通と地域観光の相互分析
- ・ナンバープレートマッチングによる広域交通調査
- ・携帯電話GPSデータの活用による観光分析
- ・MACアドレス収集による観光動態把握